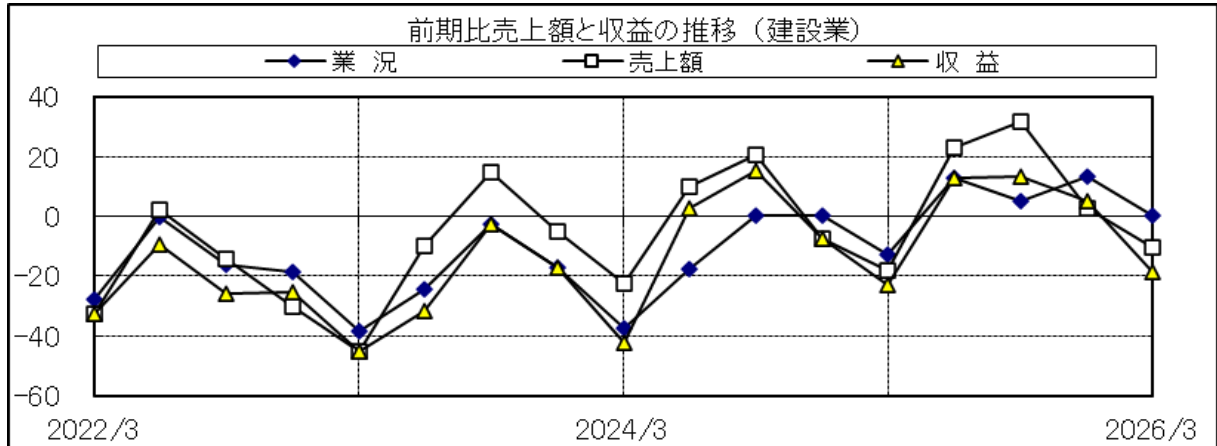


建設業 38 企業 (回答率 100.00%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	5.3	13.2	0.0	-21.1
売上額	31.6	2.6	-10.5	2.6
収 益	13.2	5.3	-18.4	-2.6

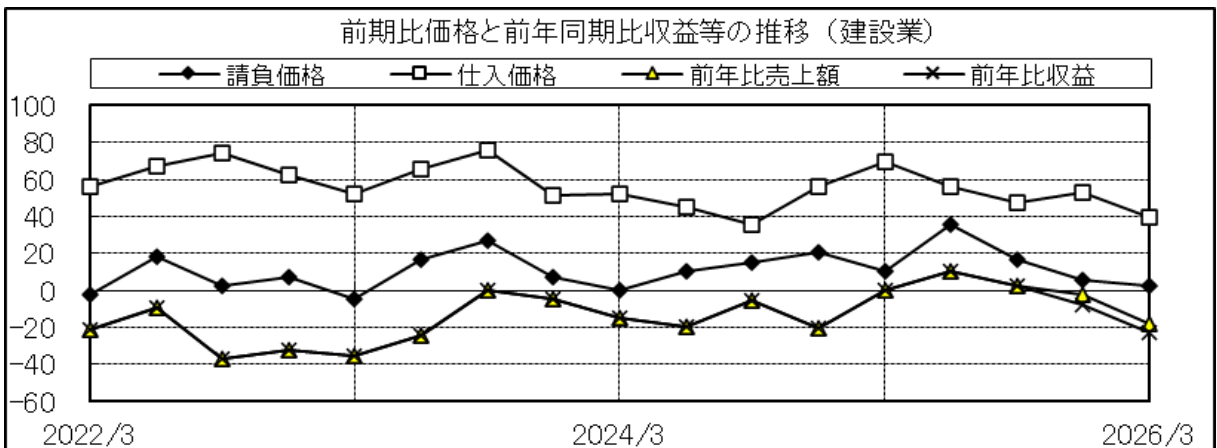
今期の業況判断D. I. は0.0で、前期比13.2ポイント下降、前年(△12.8)比で12.8ポイント上昇した。地区別D. I. の水準は高い順に、様似が最も高く、次にえりも、浦河、三石、広尾と続き、静内が最も低い水準となった。売上額判断D. I. は、△10.5で、前期比13.1ポイント下降。収益判断D. I. は△18.4で、前期比23.7ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
請負価格	26.3	5.3	2.6	7.9
仕入価格	47.4	52.6	39.5	39.5

請負価格判断D. I. は2.6で、前期比2.7ポイント下降、前年(12.8)比で10.2ポイント下降した。仕入価格判断D. I. は39.5で、前期比13.1ポイント下降。前年(69.2)比で29.7ポイント下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	7.9	-5.3	-13.2	-10.5
人手状況	-55.3	-42.1	-42.1	-47.4

残業時間判断D. I. は△13.2で、前期比7.9ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断D. I. は△42.1で、前期と同率で、人手不足感に変化はなかった。

□ 設備投資の動き

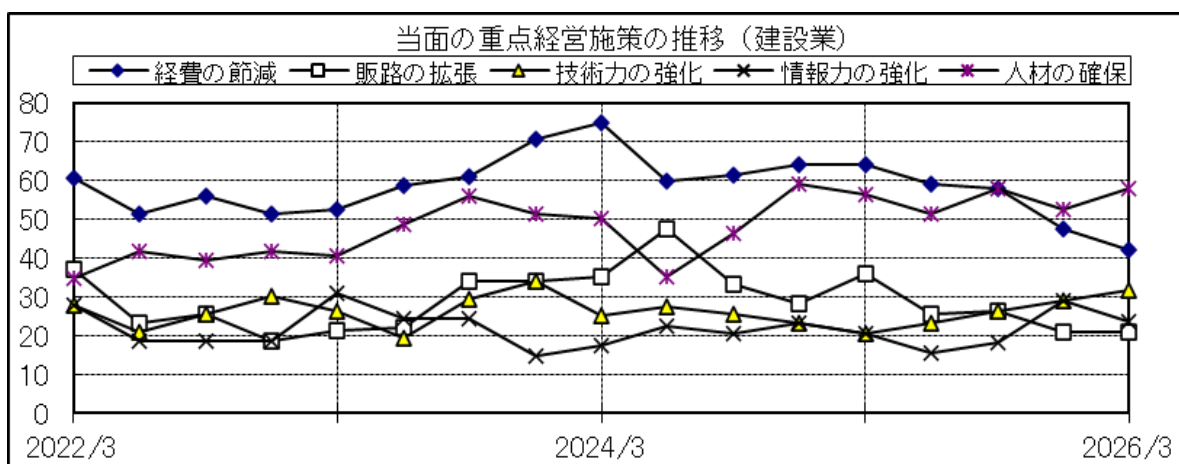
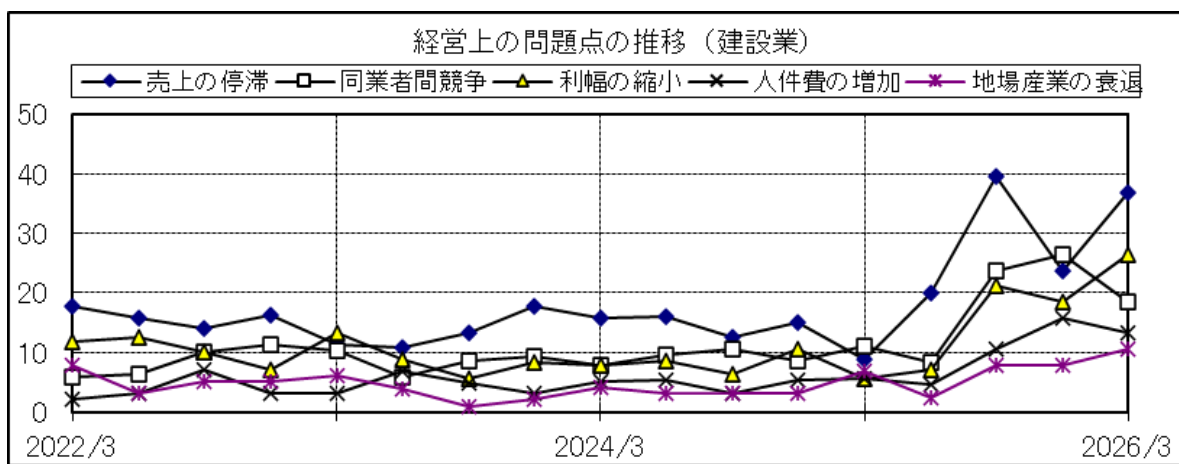
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 2.6$ で、前期($\Delta 10.5$)比7.9ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は15.8で、前期(23.7)比7.9ポイント下降した。設備投資は、前期9社に対し、6社の実施となった。来期の設備投資は、6社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」が50.0%と最も多く、次に「人出不足」42.1%、「売上停滞減少」36.8%、「利幅縮小」26.3%、「同業者競合」18.4%、「人件費増加」13.2%、「地場産業衰退」10.5%、「大手企業競合」・「諸経費増加」・「技術力不足」が5.3%、「下請け確保難」・「天候不順」が2.6%となっている。

重点経営施策では、「人材確保」が57.9%と最も多く、次に「経費節減」が42.1%、「技術力強化」31.6%、「情報力強化」23.7%、「販路拡大」21.1%、「新工法導入」・「不動産有効活用」が5.3%、「労働条件改善」2.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 21.1$ と、今期比21.1ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は2.6と、今期比13.1ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 2.6$ と、今期比15.8ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D. I. は7.9と、今期比5.3ポイントの上昇を見通している。

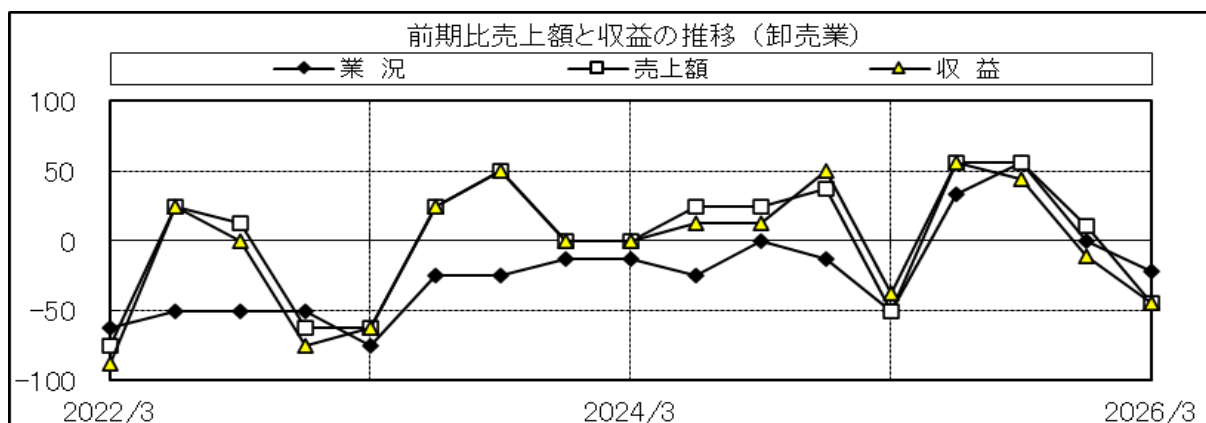
予想仕入価格判断D. I. は39.5と、今期と同率を見通している。

卸売業 9 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業況	55.6	0.0	-22.2	-11.1
売上額	55.6	11.1	-44.4	11.1
収益	44.4	-11.1	-44.4	11.1

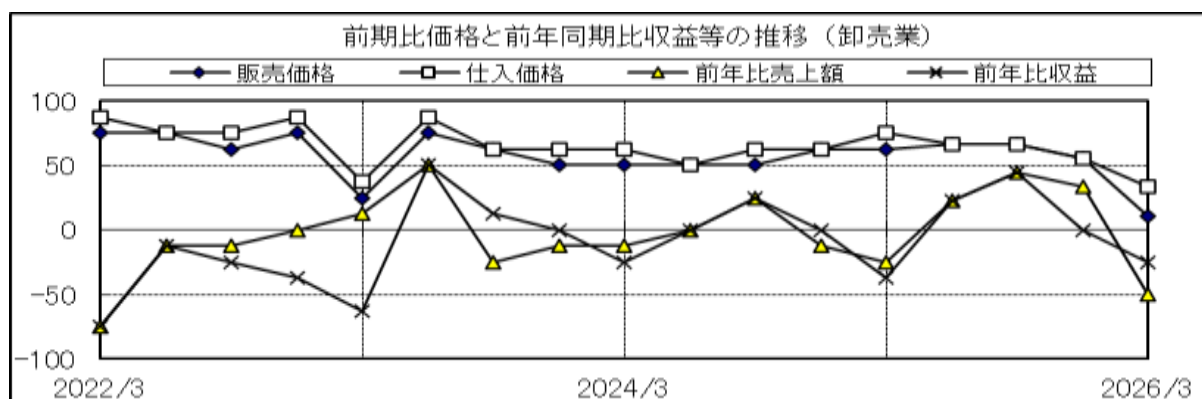
今期の業況判断 D. I. は△22.2 で、前期比 22.2 ポイント下降、前年(△50.0)比で 27.8 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は、浦河・様似地区は下降、静内地区は上昇、三石地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は△44.4 で、前期比 55.5 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△44.4 で、前期比 33.3 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	66.7	55.6	11.1	11.1
仕入価格	66.7	55.6	33.3	22.2

販売価格判断 D. I. は 11.1 で、前期比 44.5 ポイント下降。前年(62.5)比では 51.4 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 33.3 で、前期比 22.3 ポイント下降。前年(75.0)比では 41.7 ポイント下降した。業種別では、水産業、食品業の販売価格、仕入価格はともに横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	11.1	11.1	0.0	0.0
人手状況	-22.2	-33.3	-44.4	-55.6

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期比 11.1 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は△44.4 で、前期比 11.1 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

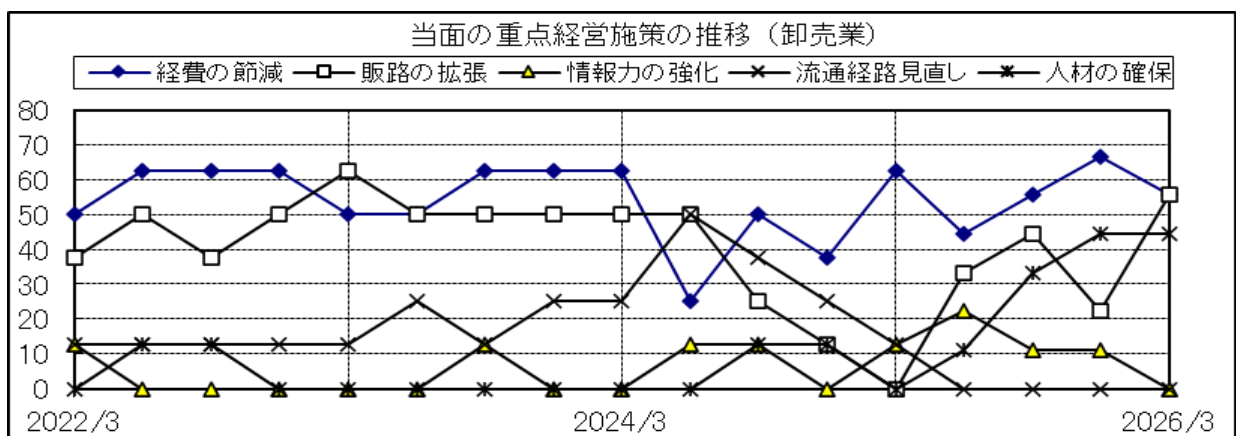
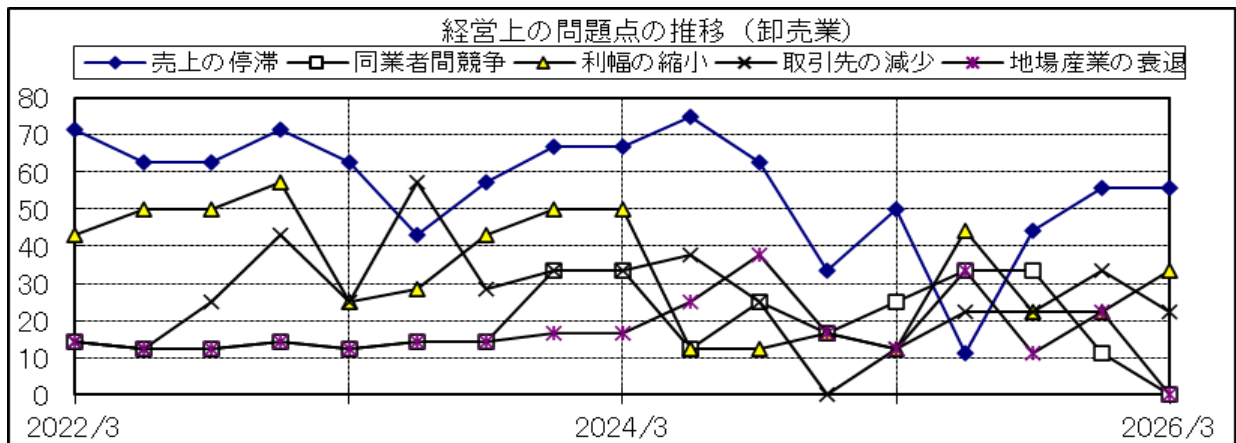
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は△11.1で、前期(△33.3)比 22.2ポイント上昇した。
 設備実施企業割合は 44.4で、前期(22.2)比 22.2ポイント上昇した。設備投資は、前期 2社
 に対し、4社の実施となった。来期の設備投資は、1社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「人手不足」が 55.6%と最も多く、次に「利幅縮小」・「販
 売商品不足」が 33.3%、「取引先減少」22.2%、「輸入製品競合」・「人件費増加」・「店舗老朽化」が
 11.1%となっている。

重点経営施策では、「販路拡大」・「経費節減」が 55.6%と最も多く、次に「人材確保」44.4%、
 「品揃えの充実」・「輸入品取扱」が 11.1%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△11.1と、今期比 11.1ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は 11.1と、今期比 55.5ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は 11.1と、今期比 55.5ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は 11.1と、今期と同水準を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は 22.2と、今期比 11.1ポイントの下降を見通している。